

## はじめに

教育、学習というどうしても学校教育を思いがちである。したがって生涯学習はその延長であり、教科をひたすら学ぶことを連想してしまう。しかし、生涯学習は、黙々と静かに学び続けることではない。

生涯学習とは、動的な事象を指すのである。生涯学習や生涯学習社会という概念は、民主的で、平等な社会において、人々がそれぞれの能力を生かし、幸せになることを願う中で生まれてきたものである。したがって生涯学習のキーワードは、「成長」、「変容」、「主体性」、「自立」、「自律」、「能動的」、「参画」、「創造」、「平等」、「民主主義」、「自由」、「変革」、「解放」等々ダイナミックな言葉である。さらに、ジェルピ (Ettore Gelpi) の言葉を借りれば、生涯学習は、「闘争」でもあるということができる。

また、ジェルピがいうように、生涯学習の概念は我々が創り出していくべきなのである。それぞれの社会に相応しい生涯学習を創り出すのは我々自身である。ユネスコの国際会議においても、それぞれに地域に合わせた生涯学習の創造が求められている。生涯学習の概念は時代や社会の変化とともに成長していくのである。

1960年代における生涯学習展開の大きな動きは、人間を信じ人間に期待を寄せる中で生み出されてきた。その動きは今も我々に希望と夢を抱かせてくれる。本書をお読みいただき、ポール・ラングラン (Paul Lengrand) その他の原著者の言葉にふれていただき、原著者の思いとその時代の息吹を感じていただければと思う。

人々の健康状態は良くなり、寿命も長くなった。民主的な社会になり、自己の選択の幅が広がった。人生も自分で創り出せる部分が増えてきた。このような現代においては、生涯学習によって生涯学習社会を創り出し、生涯学習時代を生きていくことが可能となった。それは、自分で考え、自分で決断を下し、自分の人生を生きることである。成長と変容を目指す人生である。またポー

ル・バージャヴィン (Paul Bergevin) が述べているように、個人の成長は、他の人々とともに生きるこの社会をより良くすることにつながるのである。我々は学習によって、より良い社会を創ることができるのである。さらに、ローマクラブが『限界なき学習』で指摘しているように、人間の学習なくしては、人類の未来は存在し得ないのである。

今日まで、「生涯学習」を発展させてきた先人の偉業に深い敬意を表し、生涯学習によって創られるより良き未来に期待をかけたい。また、学び続ける若者に希望を託し、本書が生涯学習社会の創造の一助となることを願う。

石本奈都子氏には編集・校正に力を注いでいただいた。ミネルヴァ書房の浅井久仁人氏には、貴重なご助言ご示唆をいただいた。心より感謝申し上げます。

西岡正子